

国立国語研究所学術情報リポジトリ

<講演1> 近くて遠い、遠くて近い、フィリピンのことば：タガログ語と日本語

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 片桐, 真澄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000908

近くて遠い、遠くて近い、フィリピンのことば タガログ語と日本語

片桐 真澄(岡山大学 准教授)

かたぎり ますみ

岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授。専門はフィリピン諸語を中心とした、台湾原住民諸語、インドネシア諸語などオーストロネシア諸言語の統語・形態、語用。著書に「主題の対照」(共著、くろしお出版、2004年)、「The Many Faces of Austronesian Voice Systems」(共著、Pacific Linguistics、2005年)など。



フィリピンという国は地理的には近いのですが、皆さんはあまり馴染みがないかもしれません。

◆フィリピンの言語

フィリピンは日本の南西にあって、面積は日本の約8割、人口は9400万人ぐらいで、日本よりは小さい国ですが、言語事情は非常に複雑です。それには地理的背景や歴史的背景、民族的背景などがあります。地理的には、フィリピンは約7109の島々から成る世界第2位の群島国家です。ちなみに第1位はインドネシアです。また、歴史的には長い間、スペインやアメリカ、日本に統治されて、統一国家が1946年までなかったということです。民族的にはマレー系が大多数ですが、約100を超える民族グループがあるとされ、非常に民族的にも多様であることから、フィリピン諸語は約120あるといわれています。日本よりも狭い国土の中に、互いに意思疎通のできない言語がそのぐらいあるといわれています。また、ス

페인語やサンスクリット語、もちろん英語などからの借用語も多い言語です。今日の発表では、フィリピン諸語の一つであるタガログ語について扱わせていただきます。

フィリピンの国語であるフィリピン語は、首都マニラを中心とした地域の土着言語であるタガログ語を母体として、ほかのフィリピン諸語の語彙や外来語なども含め

た言語です。実態としては、タガログ語とフィリピン語は相違ないと言って差し支えないと思います。マニラを含む、ルソン島中南部辺りで話される言語です。けれども、第2言語話者も含めると、タガログ語の話者はフィリピン全土にいます。タガログ語をはじめ、フィリピン諸語はオーストロネシア語族に属しています。

◆近くて遠いタガログ語と日本語

このように、日本とフィリピンは地理的には非常に近いのですが、日本語とタガログ語をはじめとするフィリピン諸語は、一見全く異なるタイプの言語であるように見えます。まず語順から考えてみると、日本語は先ほどのお話にもあったように、述部が末尾に来るSOV(主語-目的語-動詞)という語順ですが、タガログ語の場合は述部が先頭に来る言語です。VSO(動詞-主語-目的語)、あるいはVOSという語順になります。

語順 述部先頭言語(VOSまたはVSO) 日本語は述部末尾言語(SOV)

	述部			主部	
(1)	Estudyante	sa	UP	ang	babae.
	学生	斜格	UP	主題	女性
	「その女性は、UP(=フィリピン大学)の学生だ。」				
(2)	Maganda			ang	babae.
	美しい			主題	女性
	「その女性は、美しい。」				
(3)	Nasa	kusina	ngayon	si	Maria.
	に(いる)	台所	今	主題	マリア
	「マリアは、今、台所にいる。」				

主部: ang(人名の場合si)が付く句。
タガログ語にはコピュラがない。

例文(1)–(3)

述部が名詞や形容詞の場合の例を(1)～(3)に示しましたが、タガログ語ではすべて述部が前に来ています。

主部が後ろに来ているわけですが、主部がangというマーカー、あるいは人名の場合はsiというマーカーなのですが、これによって表されています。これらの例から分かるように、日本語の「だ」や「です」に当たるようなものをコピュラと呼びますが、タガログ語にはそういうものはありません。例えば(1)ですと「その女性は、UP(フィリピン大学)の学生」のようなもので文になるということです。

さらにタガログ語には世界の言語の中でも非常にユニークな、フィリピン・タイプと呼ばれる文の交替のシステムがあつて、それがフォーカス体系と呼ばれています。(4)～(6)の文は動詞述語文なのですが、この文の中の一つの要素、名詞的な要素が主要要素として選ばれます。それがangというマーカーによって、マークされるということです。

例えば(4)「男は妻に指輪を買った」という文になりますと、男は行為者ですが、行為者である男が主要要素として選ばれ、angというマーカーで表されています。さらにそれだけではなく、動詞biliは「買う」という意味なのですが、これに行為者が主要要素ですよということを示す、行為者焦点接辞(フォーカス)が付きます。この形は完了の形です。タガログ語には時制がなく、アスペクトがあるのです。アス

ペクトとは完了や未完了などを表すものです。このように行為者が選ばれた場合は、行為者焦点文と呼んでいます。

(5)や(6)の場合は「彼の妻に」、益を受ける者という受益者が主要要素として選ばれて、動詞には受益者焦点接辞が付きます。(6)の場合には対象が主要要素として選ばれた対象焦点文という形になっています。(4)～(6)のような交替は、行為者と受益者と対象の三つの名詞要素だけでしたけれども、例えば「先生は罪滅ぼしに高島屋で奥さんのために退職金で指輪を買った」という文があるとしますと、原則としてどのような意味役割の名詞でも主要要素になることができます。例えば「罪滅ぼし」を主要要素にしたり、「退職金」という道具を主要要素にしたり、そういうことができるわけです。

こういうものをフォーカス体系と言いますが、これは日本語や英語など、ほかの言語に見られる受動態などの態の交替とは、基本的に異なるものです。このフォーカス体系はフィリピン諸語の一番の特徴と言ってもいいかと思います。このように、語順の点から見ても、ユニークなフォーカス体系を持っていることから見ても、日本語とフィリピン諸語、タガログ語は、全く異なる言語であるように見えます。

◆遠くて近いタガログ語と日本語

このように全く異なる遠い言語に見えるタガログ語

にも、日本語と類似する点が多々あります。一つには、日本語と同じように主題を持っている、主題優勢言語である点が共通しています。英語などのヨーロッパ諸語の多くは、主語という文法的な要素、文法関係を中心とする主語優勢言語なのですが、日本語では主語とは独立の概念として主題

bili「買う」						
(4)	B-um-ili	ang	lalaki	nang	singsing	para sa asawa niya.
	行為者焦点(完了)-買う主題	男	属格	指輪	ために	妻 彼の
	男は妻に指輪を買った。					
(5)	I-b-in-ili	nang	lalaki	nang	singsing	ang asawa niya.
	受益者焦点(完了)-買う属格	男	属格	指輪	主題	妻 彼の
	妻は男に指輪を買ってもらった(#買われた)。					
(6)	B-in-ili	nang	lalaki	ang	singsing	para sa asawa niya.
	対象焦点(完了)-買う	男	属格	指輪	ために	妻 彼の
	??指輪は男に(よって)妻のために買われた。					
<ul style="list-style-type: none"> 原則として、どんな意味役割の名詞句でも主要要素になることができる。他の言語の受動態など態の交替とは本質的に異なる。 						
<p>先生は、罪滅ぼしに 高島屋で 奥さんのために 退職金で 指輪を買った。</p> <p>意味役割: 行為者 原因・理由 場所 受益者 道具 対象</p>						

例文(4)～(6)

(7)

おじいちゃん: 子どもたちがいないね。

おばあちゃん: a. 子どもたちは/*が今向こうでカレーを作っているよ。

b. *カレーは子どもたちが今向こうで作っているよ。

野田尚史(1996)『「は」と「が」』東京:くろしお出版

(8)

Lolo: Wala dito **ang mga bata**, di ba?

Grandpa none here TOP PL child not Q

おじいちゃん: 子どもたちがいないね。

Lola: a. Nagluluto **ang mga bata** nang adobo doon ngayon.

Grandma AF+cook TOP PL child GEN adobo over there now

おばあちゃん: 子どもたちは今向こうでアドボを作っているよ。

b. *Niluluto nang mga bata **ang adobo** doon ngayon.

PF+cook GEN PL child TOP adobo over there now

*アドボは子どもたちが今向こうで作っているよ。

例文(7)、(8)

を持っていて、それを日本語の場合は「は」という助詞でマークします。タガログ語では先ほど見たようにang、人名の場合にはsiというマーカーによって表します。

言語類型論的に主題を表す手段としては、形態的な手段のほかに、主題を文頭へ置く文法的手段や、主題の後にポーズを置くなどの音声的手段などがありますが、タガログ語の場合には、このすべての手段を持っています。いずれの場合も、主題となる要素にすべてangが付いています。

タガログ語のangは、日本語の「は」に比べて、かなり文法的な要素です。多くの統語現象にかかわることから、主題ではなくて、主語だと言う人もいるのですけれども、主語ではないと考えます。また、談話においてangの付く要素の表れ方を見ると、日本語の「は」の表れ方とかなり似ていることが分かります。

(7)の「子どもたちがいないね」という発話に対して、「子どもたちは今向こうでカレーを作っているよ」という文は自然なのですが、「子たちが」としたり、あるいは「カレーは」としたりすると、かなり不自然になります。このように日本語の談話では、「は」は前の

文脈に出てきたものを主題として、話題を継続することに用いられるのですが、タガログ語でも同じようなことが観察されます。「子どもたちがいないね」に対する最も自然な応答として、タガログ語話者は(8)aのような、先ほど見た行為者を主要要素とした行為者焦点文を使います。bのような対象を主題とした文は、文法的な文なのです。文のレベルでは、行為者焦点文よりも、むしろ選ばれやすい文なのですけれども、この談話の中では、問われている子どもたちの居場所よりも、

関心の中心は対象であるアドボになっています。アドボは、肉と野菜を炒めて煮込んだようなフィリピン料理の一つです。フィリピンではあまり辛いものは食べないので、カレーではなく、アドボにしましたが、これは関心の中心がアドボにあるように感じられる点で、かなり不自然だということです。このようにタガログ語のangも、かなり文法的な要素とはいえ、依然として主題的な要素を持っています。

◆人魚構文

これから人魚構文の話になります。先ほどの角田先生のご講演の中にもありましたように、日本語などの述部末尾言語(SOV)に特徴的と考えられてきた人魚構文が、実はタガログ語にも存在することです。人魚構文は「太郎は明日大阪へ行く予定です」のように、文の半分が動詞述語文的で、文の半分が名詞述語文的な文のことなのですけれども、上半身が人で、下半身が魚の人魚にちなんで人魚構文と名付けられたわけです。これまで多くのSOVの言語には見付かっているのです。それから、述語が中間に来る英語には、先ほどのホイットマン先生のお話にもありましたように、基本的にはあ

【日本語】

【太郎は明日大阪へ行く】予定 です。

[節]	名詞 コピュラ
第一部分	第二部分

【タガログ語】

- ・タガログ語は述語先頭なので、日本語と鏡像関係をなす。
- ・タガログ語にはコピュラがない。
- ・要素をつなぐときには、リンカー(連結辞)が必要。(中国語の「的」のようなもの)

名詞	リンカー	[節]
第一部分		第二部分

- ①定形タイプ 名詞 リンカー [定形節]
 ②不定形タイプ 名詞 リンカー [不定形節]

人魚構文のプロトタイプ

りません。けれども、中国語などには少し周辺のながら、あります。しかし一方で、述部が先頭に来るような言語では、これまで研究はおろか、その存在さえ明らかにはなっていませんでした。

人魚構文のプロトタイプ、典型的な形から考えてみますと、日本語の人魚構文は、第一部分が節、文の形をしていて、第二部分が名詞+「だ」のようなコピュラの形になっています。全体として節、名詞、コピュラが魚人構文のプロトタイプと呼ばれています。タガログ語は述部が先頭に来る言語なので、日本語と逆になると考えられます。すなわち、上半身が魚で、下半身が人間の「人魚構文」と言った方がいいのかもしれない形になることが予測されます。

さらにタガログ語には、コピュラがありません。要素と要素、何かをつなぐときには、リンカーという連結辞が必要になってくるので、タガログ語の人魚構文は名詞-リンカー-節という形になると予測されます。実際にこのような形で起こって、さらに節の形によって、定形タイプと不定形タイプという二つのタイプがあります。この定形や不定形については、後で少しご説明します。

定形タイプでは、名詞は「顔」という意味の単語、mukhaを使います。これはサンスクリット語からの借用語です。サンスクリット語では

「顔」や「口」、「表情」などの意味があります。ヒンディー語でもmukhaは「顔」の意味で使います。

それから、リンカー、連結辞はmukhaという単語が母音で終わるので、-ngという接辞を取ります。それから、定形節が後に来るわけです。定形節は、普通は時制を持っている文のことを言うのですが、タガログ語には時制はありませんので、その代わり、アスペクト、先ほどの完了や未完了などを

使います。これによって活用をします。それで節自体が独立した文として成り立つものです。従って、定形タイプの人魚構文はmukha-ng+定形節という形になって、意味としては話者が実際に見ていることに基づいて判断したり、あるいは周囲の状況から推論して、「～のようだ」という意味を表す構文です。直訳すると「～の顔だ」ということになります。

1. 定形タイプ

(9)～(11)の文は、それぞれ節が名詞述語、形容詞述語、動詞述語の場合を示しています。mukha-ngの後に続く節、例えば(9)であれば

(9) 名詞述語	Mukha-ng	[binata=pa=siya].		
	face-LK	bachelor=yet=3SG:TOP		
	直訳:	彼はまだ独身の顔だ。		
	訳:	彼はまだ独身のようだ。		
(10) 形容詞述語	Mukha-ng	[malusog	si	Erap].
	face-LK	healthy	TOP	Erap
	直訳:	エラップは健康の顔だ。		
	訳:	エラップは健康そうだ。		
(11) 動詞述語	Mukha-ng	[sa=sabog=na	ang	bulkan].
	face-LK	AF:CONT-erupt=already	TOP	volcano
	直訳:	火山がもう噴火する顔だ。		
	訳:	火山がもうすぐ噴火しそうだ。		

例文(9)～(11)

節が動詞述語の場合、アスペクトやフォーカスの制約はない。

- (12) Mukha-ng [b-um-i-bili ngayon ang lalaki nang
face-LK AF:IPFV-buy now TOP man GEN
bago-ng kotse].
new-LK car
直訳: 男は今、新しい車を買っている顔だ。
訳: 男は今、新しい車を買っているところのようだ。
- (13) Mukha-ng [b-in-ili kahapon nang lalaki
face-LK PF:PFV-buy yesterday GEN man
ang bago-ng kotse].
TOP new-LK car
直訳: 男は昨日、その新しい車を買った顔だ。
訳: 男は昨日、その新しい車を買ったようだ。

例文(12)、(13)

[binata=pa=siya]自体は、「彼はまだ独身です」という意味の独立した文として成り立ちます。これに mukha-ng が付いて、「彼は独身の顔だ」という直訳になるのですが、意味としては「彼はまだ独身のようだ」、見た目から判断してそういうふうに言っているということです。顔には限りません。

(11)の形を少し見てくださいと、動詞の形、sa-sabogのところ。これは未然相というアスペクトを持っていて、行為者焦点の形です。すなわちアスペクトとフォーカスによって活用していることが分かります。

今度は、節が動詞述語の場合について、アスペクトやフォーカスの制約があるかどうかというと、ありません。

例えば(12)の節は未完了相の節で、行為者焦点の形です。(13)の方は完了相で、対象焦点の形になっています。つまり、完了したこと、すなわち今見

話者が実際に見ていなくても、状況から推論する場合にも用いる。

- (14) Mukha-ng [isda ang i-p-in-i-prito nang lalaki].
face-LK fish TOP PF:IPFV-fty GEN man
直訳: 男が揚げているのは魚の顔だ。
訳: 男が揚げているのは魚のようだ。

例文(14)

ていることでもなく、この構文を使って「～のようだ」「男は昨日その新しい車を買ったようだ」と言うことができます。

今までの例は、話者が実際に見てという例が多かったわけですが、実際に見たことに基づく例が多いのは、多分 mukha「顔」という単語を使っていることから、視覚的な情報に基づくのが基本的な意味と考えられるわけなのですが、それには限りません。実際に見ていなくても、

周囲の状況から推論する場合にも用います。

(14)は、例えばにおいをかいで、そういう状況から「男が揚げているのは魚のようだ」という推論をしている例です。フィリピン人は、魚をフライにして食べるのが好きなのです。

2.不定形タイプ

今度は不定形タイプの方を見ていきたいと思えます。不定形タイプの場合の名詞はどういうものが使われるかというと、「計画」「習慣」「運命」などの意味の名詞を用います。これもやはり借用語がなぜか多いです。それから、リンカーは前の語がどのような音で終わるかによって決まります。節は不定形です。不定形はアスペクトを持たない、英語で言ったら不定詞のような形ですが、節自体が独立して、文としては成り立たない節のことです。意味はそれぞれ名詞によって、「～する計画だ」「～する習慣だ」「～する運命だ」という意味を表します。

(15)～(17)は不定形タイプの人魚構文の例になります。動詞は、(15)や(16)は対象焦点の形、(17)は行為者焦点の形になっています。動詞はフォーカスでは

活用するのですけれども、アスペクトによっては活用しません。すべて不定形で、不定詞のような形になっています。

さらに注目したいのが、行為者名詞句の形です。(17)では、節が行為者焦点形になっています。行為者である「ピラール」が主題の形、すなわち人名の場合にはsiが選ばれることが予測されますが、属格のniという形で起こることもでき、むしろ属格でしか起こらない場合が多いのです。

次の場合を見てみましょう。(18)では節が自動詞節なので、必然的に行為者焦点の形になるのですけれども、行為者である「ノイ」は主題格が起こらず、siは駄目で、属格のniしか許されません。ちなみにこれは先ほどのmukha-ngを使った定形タイプとは大きく異なる点です。mukha-ngを使った定形タイプでは、Cf.にあるように節が行為者焦点の場合には行為者名詞句を主題にしなくては いけません。これは普通の文と同じです。

それから、(19)は主題格が可能な場合もあります。属格はどんな場合でも可能です。この辺はまだよく分からないのですが、主題格が許されるのは「いなくなる」「負ける」など、意図的でない意味の動詞の場合に限られるようであると言えます。

こういうことから見ていきますと、さらに不定形タイプでは、節の中の行為者名詞句は文頭の名詞の直後に起こることもできます。

(15)Plano-ng	[apruha-han	nang	gobyerno	ang	
plan-LK	approve-PF:INF	GEN	government	TOP	
	pag-import	nang	bigas].		
	NMLZ-import	GEN	rice		
	直訳:	政府の米の輸入を認める計画だ。			
	訳:	政府は米の輸入を認める計画だ。			
(16)Tradisyong-g	[ipag-diwang	nang	manga Filipino	ang	Easter].
tradition-LK	PF:INF-celebrate	GEN	PL	Filipino	TOP
	直訳:	フィリピン人のイースターを祝う伝統だ。			
	訳:	フィリピン人はイースターを祝う習慣だ。			
(17)Kapalaran-g	[ma-wala	si / ni	Pilar	sa	
fate-LK	AF:INF-disappear	TOP/GEN	Pilar	OBL	
	Maynila	upang	ma-kita	si	Pepe].
	Manila	in order to	PF:INF-see	TOP	Pepe
	直訳:	ピラールは/のペペに会うためにマニラでいなくなる運命だ。			
	訳:	ピラールは、ペペに会うためにマニラでいなくなる運命だった。			

例文(15)–(17)

(18)Plano-ng	[b-um-isita	ni / *si	Noy	sa	
plan-LK	AF:INF-visit	GEN/*TOP	Noy	OBL	
	Davao	bukas].			
	Davao	tomorrow			
	直訳:	ノイは明日ダバオを訪問する予定だ。			
	Cf. Mukha-ng	[b-um-isita	si / *ni	Noy	sa
	plan-LK	AF:INF-visit	GEN/*TOP	Noy	OBL
	Davao	bukas].			
	Davao	tomorrow			
	直訳:	ノイの明日ダバオを訪問する顔だ。			
	訳:	ノイは明日ダバオを訪問するようだ。			
(19)Kapalaran-g	[ma-talo	ni / (?si	Erapnoon-g	eleksyon].	
fate-LK	AF:INF-lose	GEN/TOP	Erap last-LK	election	
	直訳:	エラップは先の選挙で負ける運命だった。			

例文(18)、(19)

(17)Kapalaran-g	[ma-wala	si / ni	Pilar	sa	
fate-LK	AF:INF-disappear	TOP/GEN	Pilar	OBL	
	Maynila	upang	ma-kita	si	Pepe].
	Manila	in order to	PF:INF-see	TOP	Pepe
	直訳:	ピラールは/のペペに会うためにマニラでいなくなる運命だ。			
	訳:	ピラールは、ペペに会うためにマニラでいなくなる運命だった。			
(20)Kapalaran	ni / *si	Pilar	na	[ma-wala	sa
fate	GEN/TOP	Pilar	LK	AF:INF-disappear	OBL
	Maynila	upang	ma-kita	si	Pepe].
	Manila	in order to	PF:INF-see	TOP	Pepe
	直訳:	ペペに会うためにマニラでいなくなるピラールの運命だ。			
	訳:	ピラールはペペに会うためにマニラでいなくなる運命だった。			

不定形タイプ 例文(17)、(20)

政府は米の輸入を認める計画だ。

- (15) Plano-ng [apruha-han nang gobyerno ang
plan-LK approve-PF:INF GEN government TOP
pag-import nang bigas].
NMLZ-import GEN rice
- (21) Plano nang gobyerno-ng [apruha-han ang
plan GEN government-LK approve-PF:INF TOP
pag-import nang bigas].
NMLZ-import GEN rice

不定形タイプ 例文(15)、(21)

ただし、(17)のように節の中では主題格が許されますが、(20)のように文頭名詞の直後にピラールが起こる場合は必ず属格niの形でなければなりません。

文頭の名詞の直後に、節の中の行為者名詞句が起こることができるのは、不定形タイプに限られています。(15)のように行為者名詞句の「政府」gobyernoは節の中にも起こることができるし、(21)のように、文頭の名詞Planoの直後に属格の形で起きることもできます。先ほどのmukha-ngを使った定形タイプでは、mukha-ngの直後に行為者名詞句を置くことはできません。

いろいろ言いましたが、タガログ語には二つのタイプの人魚構文が存在して、節が定形か不定形かという違いだけでなく、行為者名詞句のさまざまな興味深い振る舞いの違いがあることが分かります。

◆おわりに

人魚構文はこうして見てきたように、述部末尾言語だけでなく、述部先頭言語にも存在することが分かります。さらに複数のタイプが存在するという事です。これは当然、日本語だけを見ては、分からなかったことです。今日のお話では人魚構文を例として見てきたわけですが、あるタイプの言語に特徴的と思われるような現象も、一見全く異なるタイプの言語に存在することが分かります。そして、その言語現象の本質を知る上で、その言語のみや

系統・類型の近い言語だけを見ては、分からないこともあります。

このようなことから、今後の日本語研究のあり方について考えてみますと、今後はこれまで以上に世界のさまざまな言語との対照研究を軸に行っていく必要があると思われま

す。その際、従来のように外国語の言語現象を、日本語に当てはめて考えるというやり方ではなく、それも必要ですが、それに加えて、日本語に特徴的と思われるような現象を、世界の言語で検証していくという、日本発の人魚構文の研究に象徴されるような方向性も必要であろうと思われま